

## はじめに

布施市、河内市、枚岡市の合併により誕生した東大阪市は、昨年2月に市制施行50周年を迎えました。現在約50万人の市民が暮らす「モノづくりのまち」「ラグビーのまち」として本市は、全国に知られる“まち”となりました。

市民の皆さまのご理解とご協力により、ラグビーワールドカップ2019日本大会開催に向けた準備が行われるなか、世界中から観戦に訪れる多くの人々をおもてなしするための取組みを進めております。

また、旧市民会館と旧文化会館の機能を集約した、文化創造館の整備に着手いたしました。文化芸術の創造と発信の拠点となる文化創造館は、本市のシンボルにふさわしい施設として、平成31年9月オープンをめざします。

新たな50年に向け、よりよいまちづくりを進めるため、多様化する市民の皆さまのニーズや意識動向をよりの確に把握し、市政に反映することが必要であると考えております。そのため、市民の皆さまの声を市政運営の基礎資料とすべく、本市では毎年、市政世論調査を実施しております。

今回の調査では、「小型家電の排出方法」「救急安心センターおおさか」「生活施設の利用環境」「市民活動と東大阪市への居留意向」「住まい・住生活」「読書」について、2,715人の市民の皆さまを対象に世論調査を実施したところ、多くの方々からご回答をいただきました。これらの結果は、市民の皆さまの貴重なご意見として、有効に活用してまいります。

結びに、この調査にご協力いただきました市民の皆さまに心から厚くお礼申し上げます。

平成30年2月

東大阪市長 野田 義和